

## 藤女子大学キリスト教文化研究所 2021年度第1回研究会のご案内

藤女子大学キリスト教文化研究所では、本年度第1回研究会を以下の内容で開催いたします。友人・知人お誘い合わせのうえ、どうぞご参加ください。

Zoom ミーティングでの開催となりますので、参加者は下記 URL より申し込みをお願いいたします。後日、Zoom ミーティングの参加案内をお送りします。

\* ご入力いただいた個人情報は、研究会への参加案内送付以外の目的には使用いたしません。

\* 本研究発表の内容は『藤女子大学キリスト教文化研究所紀要』への掲載を予定しております（予定変更の可能性あり）。

日時：2021年9月21日（火） 18:00～19:30

場所：Zoom ミーティング（オンライン開催）

発表者：多田圭介氏（本研究所客員所員、本学非常勤講師）

題目：人類が補完された後の世界で——エヴァンゲリオンとセカイ系問題——

参加費：無料

参加申し込み URL： <https://forms.gle/cmPG1qm7JBFSwzgg8>

（上のリンクで登録できなかった場合、下のリンクをお試しください。）

[https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfJm6Xbc44dZdEnwPzfSBY9YThrB5Ci-Wnjyza\\_fNY\\_rdppVw/viewform?usp=sf\\_link](https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfJm6Xbc44dZdEnwPzfSBY9YThrB5Ci-Wnjyza_fNY_rdppVw/viewform?usp=sf_link)

問い合わせ先：本研究所所員 勝西良典（[katsun-y☆fujijoshi.ac.jp](mailto:katsun-y☆fujijoshi.ac.jp)）

〔「☆」を「@」に変えてください。〕

**多田圭介氏紹介**：北海道大学大学院文学研究科博士後期課程修了、博士（文学）。研究分野は、現象学を中心とするドイツ語圏の近現代哲学、及び近代日本哲学、クラシック音楽と舞台芸術の批評、さらに近年は日本の戦後アニメーションの研究にも手を染めている。主要論文に、「ザロモン・マイモンの哲学」『ニクス』（第2号、堀之内出版、2015）他。

**発表概要**：私たちは他者と関わると必然的に誤り、相手を傷つけ、そのことによって自分も傷つく。よく生きようとするほどにそうなる。これは人間が本質的に抱え込んでいるエラーのようなものである。新世紀エヴァンゲリオンという作品を一貫するのは、この否定神学的な確信である。旧TV版は、この現実直面し自己の内面へと退却してゆく主人公が共感を集め社会現象となった。そして旧劇場版ではその社会現象に対する監督・庵野秀明の自己批評として、上記エラーが克服不可能であることを認めつつ（反動で決断主義が孕む暴力性を肯定することも避けつつ）その上で自由ではあるが慎重な他者へのアプローチの可能性が模索された。だがエヴァの解釈史はこのポイントを掬い取れていない。ゆえにエヴァの影響下に生まれた「セカイ系」なる作品群は歴史や社会といった中間項を抜きに個人と世界を直結させるという大幅な想像力の後退を見せ、現実に追いつかれ、庵野自身もエヴァ新劇場版でその流れに呑み込まれてしまった。本発表では、想像力の世界を経由してしかコミットできない現実の豊かさをエヴァとともに取り戻すことを試みたい。